空から見た中和泉三丁目・元和泉二丁目周辺
写真中央下部の緑の杜が兜塚古墳

まちの中の古墳

今から約一五〇〇年前に造られた古墳。墳墓として築かれた古墳は、地域の象徴的なモニュメントとしてそれぞれの時代を歩み、今日まで伝わってきました。

狛江の地には、「狛江百塚」といわれるほど、数多くの古墳が造られました。小規模ながらも古墳が密集する光景は、壮観だったと思われます。

時が流れ、墳墓としての記憶が薄れていくと、再利用される古墳がでてきます。また、畑の中にあるため、耕作時に切り崩されてしまう古墳も。しかし、謂れが知れなくなっても、古墳の名残は、農村風景が広がっていた頃には、至る所で見つけられました。

その後、狛江が住宅都市として大きく発展していくと、その多くは姿を消していき、残された古墳を取り巻く環境も大きく変化しています。今では、住宅地の中に点在するのが狛江の古墳の特色になっています。

六郷さくら通りの桜と経塚古墳の緑

猪方小川塚古墳公園
実物の横穴式石室を展示

古墳を公園に

今に伝わる狛江の古墳は、緑を湛え、まちの中にひっそり佇んでいます。古墳の杜がまちの景観にとけ込み、その存在に気づかないことも。気づかぬうちに、まち並みや季節の移り変わりにアクセントをつけています。

こうした古墳をいかに保護・保存していくのか。いかに活用していくのか。新たな取組の一つが、まちと一体感のある公園としての整備です。

令和の狛江の古墳は、まち中の公園として新たな歩みをはじめます。

徳富蘇峰が揮毫した「狛江亀塚」の記念碑